

上位勢の実力伯仲

南松本、開智が3位と健闘

第十九回市民タイムス少年サッカー新人戦・カガミカップは二十一日、岡谷東部の六年ぶり二回目の優勝で閉幕し、松本市内の南松本、開智両チームが3位に食い込む健闘を見せた。各チームは試合を通して収穫、課題を洗い出し、来季の飛躍に向けて新たなスタートを切った。

準々決勝以上の7試合のうち4試合がPK戦にもつれ込み、上位チームの実力には差がなかった。塩尻広丘は準々決勝、南松本は準決勝で、

それぞれ優勝した岡谷東部とPK戦を演じるなど、各会場で息詰まる熱戦が相次いだ。一般規格の広いコートに対して選手たちはコンパクトな陣形を保ち、スペースにロングボールを送り込む大味な展開に陥らず、丁寧にパスをつないで攻撃を組み立てる意識が強くなった。回数に制限を設けない自由な選手交代が取り入れら

▽準々決勝
◇アルウィン

南松本 6 (1-1-0) 菅野
岡谷東 2 (0-1-1) 塩尻広丘

PK 4-1
◇芝生グラウンド

開智 0 (0-0-0) 清水

PK 4-2

昭和 0 (0-0-0) 筑摩野

PK 4-2

▽準決勝
◇アルウィン

昭和 2 (1-1-0) 開智

◇芝生グラウンド

岡谷東 2 (1-1-1) 南松本

PK 4-3



2度目の優勝を果たした岡谷東部FC



準優勝の昭和FC



3位の南松本サッカースポーツ少年団



3位の開智サッカースポーツ少年団